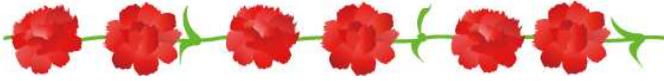


信頼と安心をキーワードに、充実したサービスの提供、適正規模の検討、職員のスキルアップと課題はたくさんありますが一步一步確実に前進していきたいと思えます。



共に作り上げていく港育成園

港育成園
管理者 松本 源太郎

この度、港育成園管理者を拝命しました松本源太郎です。

昨年度、港育成園へ戻ってまいりまして、主任として、一年間港育成園を見てまいりました。

港育成園は私が育成会で入職時から最初の5年間を勤めました。それから12年を経て港に舞い戻ったわけです。当時は通所更生施設でしたが、今は生活介護事業所となり事業形態が変わり、もちろん利用者も変わり、いろんなことが変わりました。

私自身、ここに帰ってきた感覚もあるのですが、今の港育成園に配属され、むしろ、新たに今の港育成園をどうしていくかという気持ちが大きいところです。

さらに今回、管理者という立場になり、港育成園という施設の運営を任されることになり、その重責に背筋が伸びる思いがします。

さて、港育成園は現在、昨年実績の平均支援区分は4.7と、より支援や見守りが必要な方を中心に施設で過ごしていただいております、その方々に対して、「障がいのある人に安心して、心豊かに過ごしていただく」ことを目標に、どのようにして安定して過ごしていただくか、そしてどのようにして生活に充実感を持ってもらうのかを、日々考えています。

昨年度は毎日の作業活動や行事のほか、個別活動を取り入れました。今年度は個別支援計画などをもとにニーズの再確認とより充実したメニューの準備や施設の改修などより充実して、快適に過ごしていただけるようにしていきます。

今年度の初めの職員会議では、職員間の連携と「チーム意識」を高めていきたいとお話させていただきました。港育成園は私一人で作り上げていく施設ではなく、支援スタッフと共に作り上げていく施設であると思っています。また、支援員だけでなく、栄養士、



事務スタッフや清掃スタッフといろんなスタッフに支えられて港育成園を運営することで、港エリア育成会の障害福祉サービスの一端を担って行ければと思います。

今年度もスタッフともどもよろしくお願いいたします。



ニーズにあった支援プログラムで利用者に選ばれる事業所へ

港第二育成園
管理者 窪田 真一

木々もすっかり芽吹き、新緑の葉が茂る季節となりました。

昨年度は港第二育成園から10名の利用者が企業へと就労し大変喜ばしい年となりました。しかしそれに対して、今年度の港第二育成園の新規利用者は1名にとどまり定員を大幅に割った状態になっております。この一年、施設見学会等で特別支援学校の保護者の方と多く面談をしてきましたが、就労移行支援事業所の性質上、2年の年限があり、多くの保護者の方が『いずれ就職したいが、(就職をするのは)2年後ではない』、『就労移行支援事業所では2年後の行き先が保証できなくて不安です』という声が多く聞かれ、就労移行支援事業所のニーズは少ないのが現状でした。

現在、港第二育成園の就労継続支援B型事業所は支援者付の企業内グループ実習や企業での単独体験実習ができます。そして就労継続支援B型事業所からでも就職ができます。イメージとしては“年限のない就労支援”、“企業就労を諦めていない”就労継続支援B型事業所として取り組み始めました。現在の特別支援学校生、学生の保護者の方のニーズに沿っていると考えております。就労移行支援で入所して年限に達してもなお、就職が決まらないケースは少なくはありません。そうした場合は就労継続支援B型事業所を受け皿にし、就労支援を続ける。また就労継続支援B型事業所で入所しても半年毎の個別支援計画の面談等で就労へのニーズがあれば、就労継続支援B型事業所に在籍のまま支援者付の企業内グループ実習や企業での単独体験実習等の就労支援を受けられるという利点があります。移行支援事業所はもちろんのこと就労継

